

パン

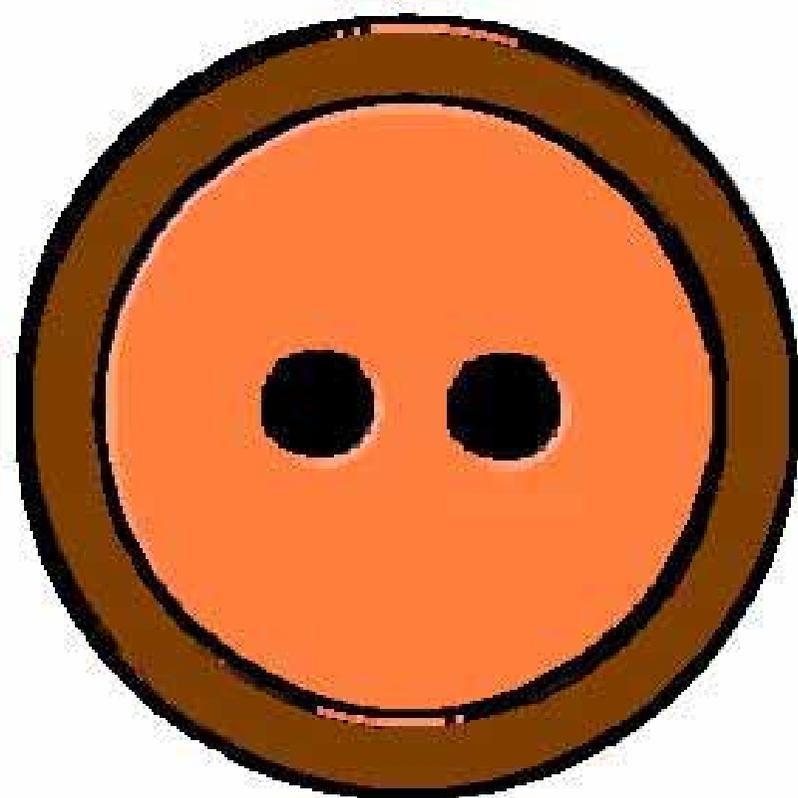
パン Pao

(ポルトガル語)

「パン」という言葉は、ポルトガル語「pao」に由来する。

ポルトガル人が種子島（たねがしま）に上陸したときに、初めて日本にパンがやってきたと言われている。

「パン」という言葉は最も古い外来語の1つとされている。



ボ タ ン

ボタン botao

(ポルトガル語)

日本で「ボタン」という名が用いられたのは、江戸中期といわれている。

明治維新(めいじいしん)頃から、洋服が流行するにしたがって、「ボタン」という言葉も広まったと考えられる。



カ ル タ

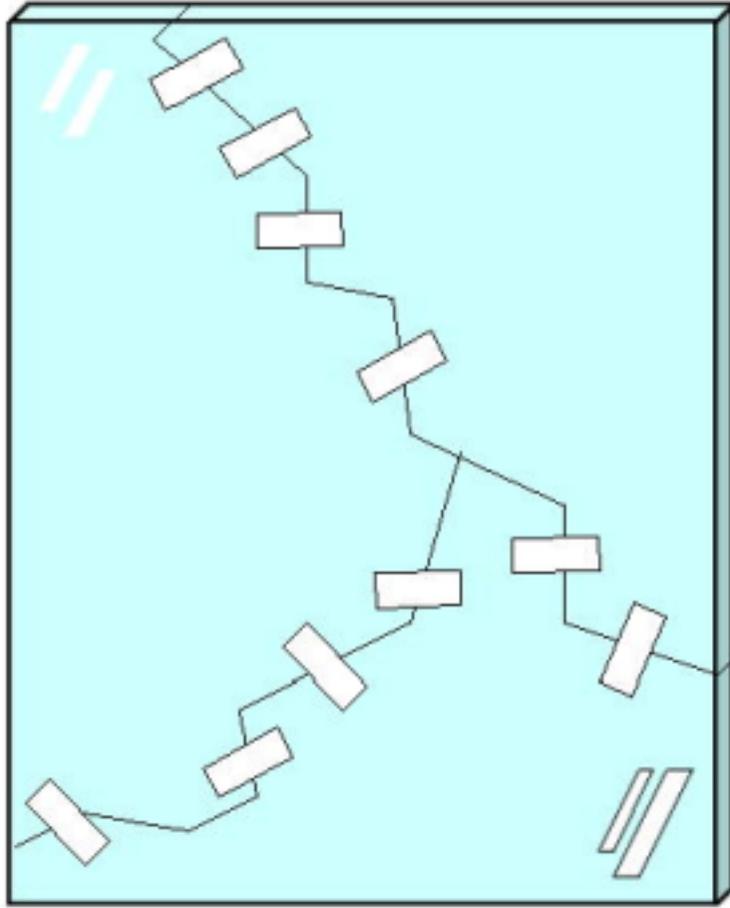
カルタ carta

(ポルトガル語)

「カルタ」とは、ポルトガル語で「札遊び」を意味している。

ポルトガル語「carta」に語源を発するカルタは、16世紀にポルトガル製のものが日本に紹介され、その後、国内でも生産されるようになった。

「カルタ」の語源はポルトガル語だが、カードを使った遊びそのものの発祥は、中国、インド、アラビアなどいろいろな説があり、はっきりしない。



ガラス

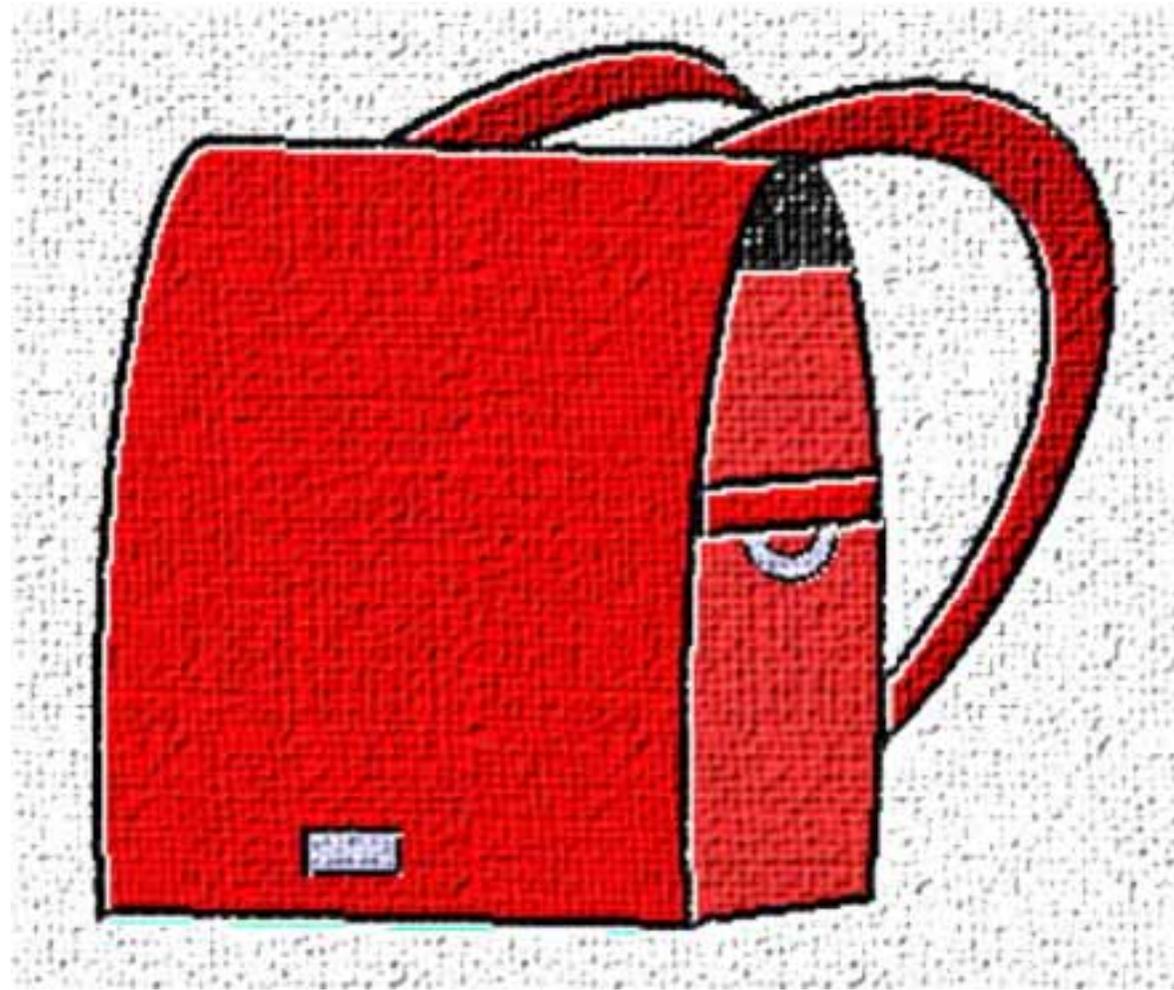
ガラス Glas

(オランダ語)

オランダ語由来の言葉である。英語では「グラス」となる。

窓ガラスや鏡、レンズ、食器など、生活の中で広く利用されている。

日本では昔、「瑠璃(るり)」「玻璃(はり)」「ビードロ」「ギヤマン」など様々な呼び名で、ガラス製品のことを表していた。その後、オランダから伝わった「ガラス」という言葉で、ガラス製品一般を呼ぶようになった。



ランドセル

ランドセル ransel

(オランダ語)

「ランドセル」は、オランダ語で「ランセル」と発音され、それが日本ではなまって、「ランドセル」と言われるようになった。

オランダでは、「背負いかばん」を意味しており、子どもの通学用かばんに限らない。

江戸時代の終わりに輸入された、兵士用の布製の背負いかばんが、ランドセルの始まりである。

ランドセルが通学用かばんとなったのは、1885年、学習院初等科で、ランドセルに学用品や弁当などを入れて通学させたことからだといわれている。



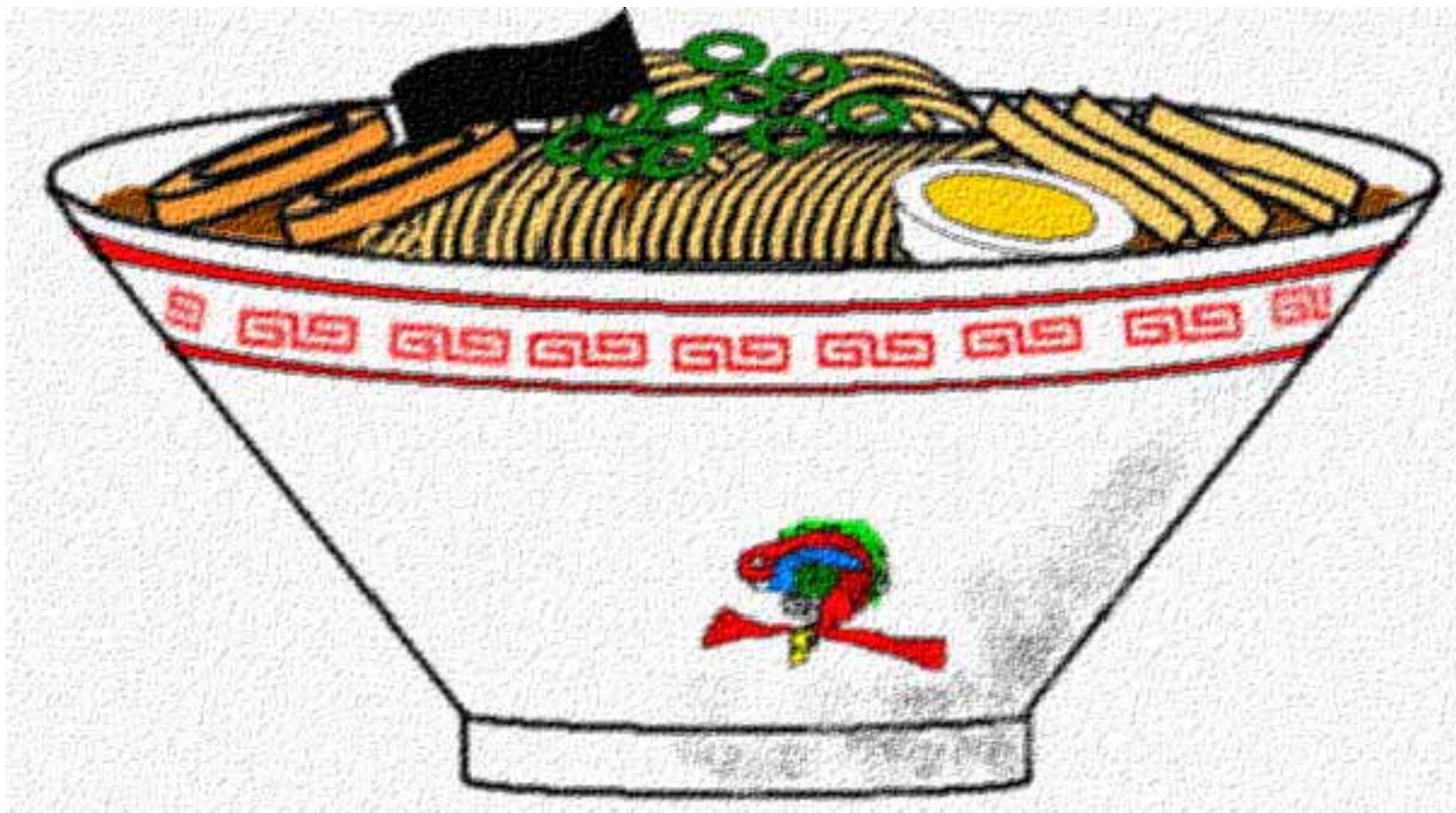
オルゴール

オルゴール orgel

(オランダ語)

オルゴールはオランダ語の「orgel」に由来している。「オルゴル」または「オルホル」というような発音の言葉である。オランダでは「orgel」は「オルガン」を意味している。

江戸時代の中ごろ、オランダから日本に伝わった「手回しオルガン(音の出る箱)」を「オルゴル」と呼ぶようになり、その後、江戸時代の終わりに日本に入ってきた自動演奏楽器も同じように「オルゴル」と呼んだのではないかとされている。



ラーメン

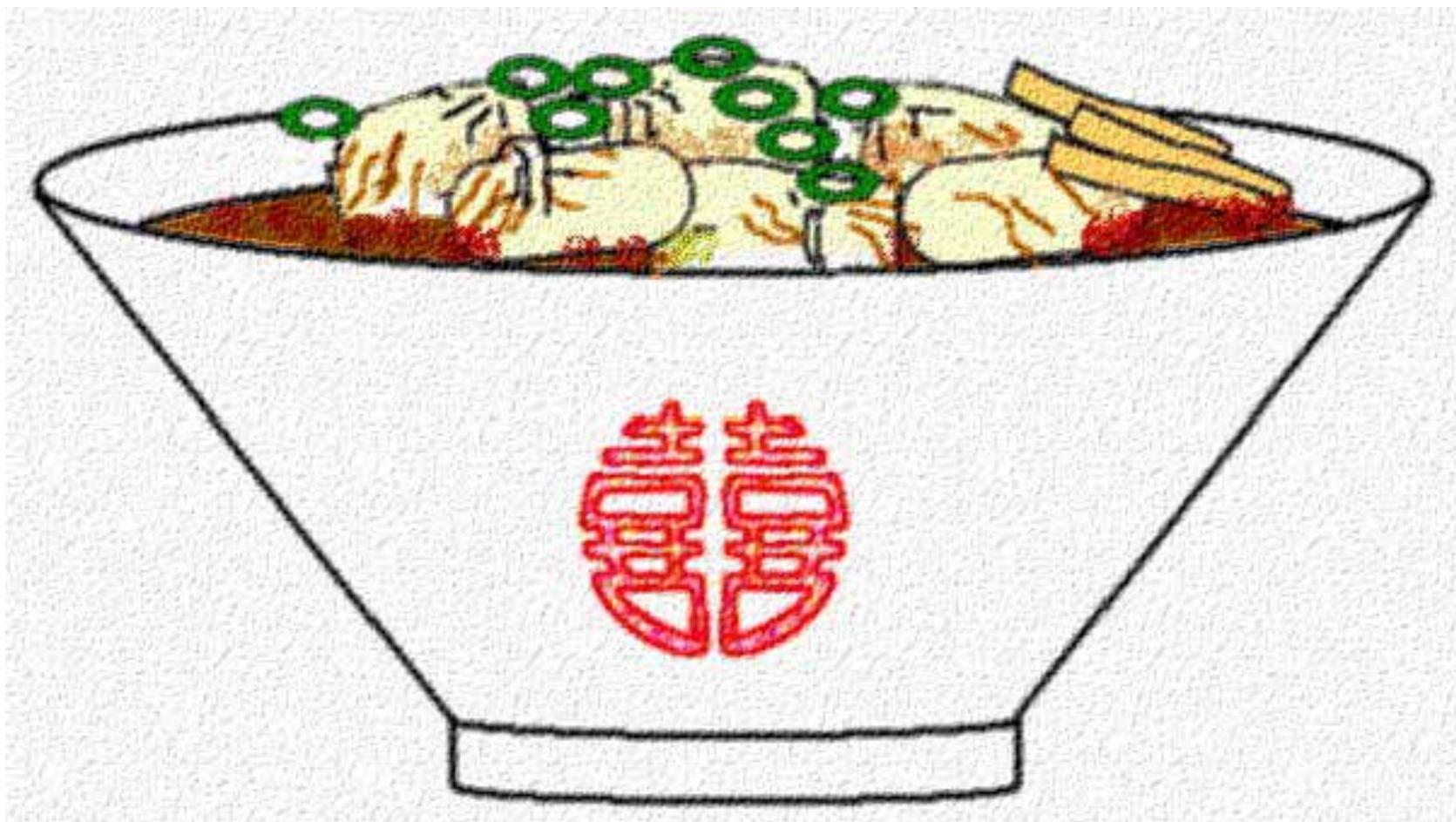
ラーメン lamian 拉麵

(中国語)

中華そば。ラーメンのラーは、「ひっぱる」を意味し、麵(メン)は小麦粉を意味する。

中国では「ラーメン」は麵のみのことを言い、スープが入ったものは、「タンメン(湯麵)」と言う。

日本で初めてラーメンを食べたのは、「水戸黄門」だと言われている。今から300年以上も前のことである。



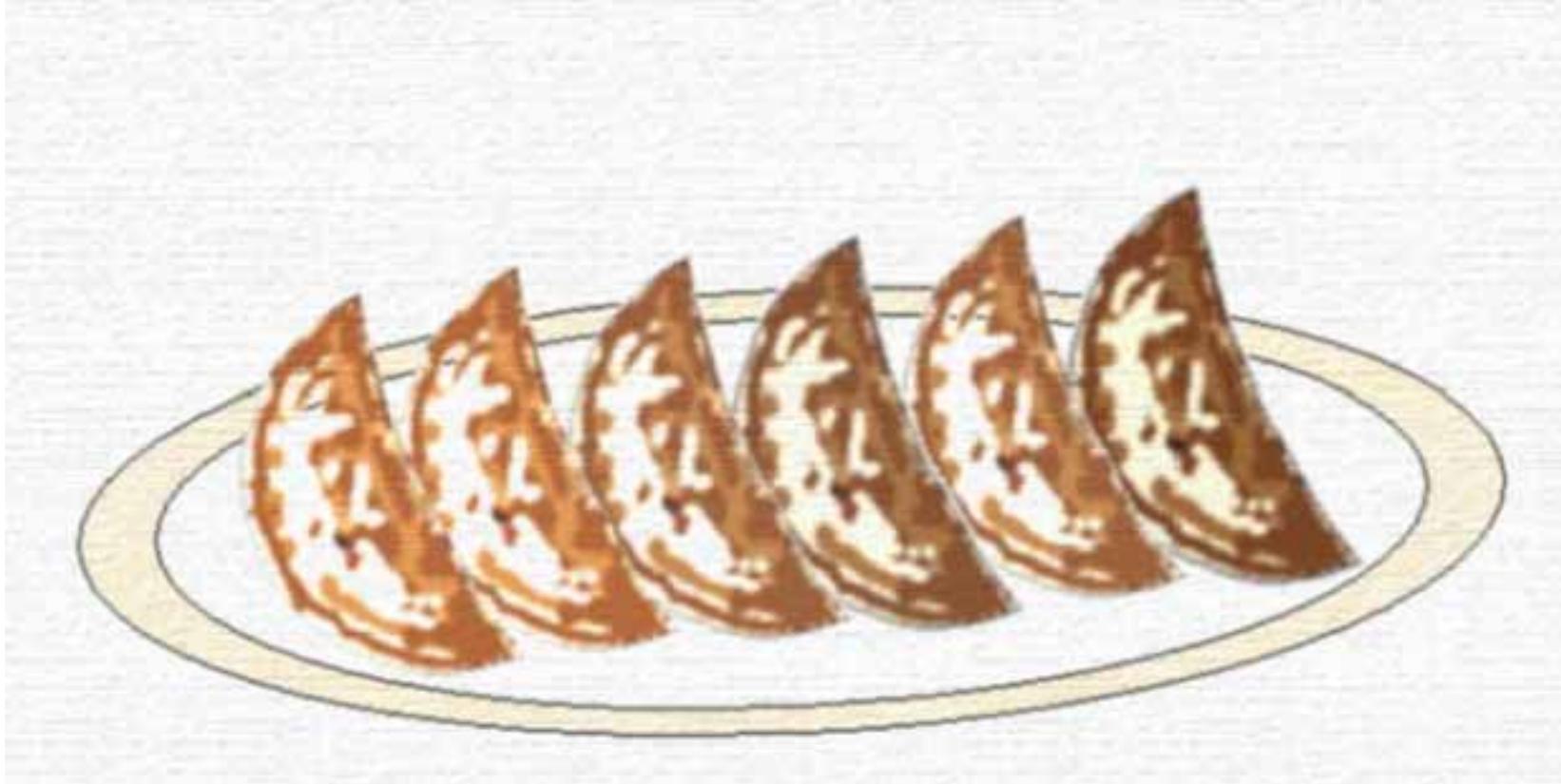
ワンタン

ワンタン huntun 餛飩 (広東語では wàhn-tán 雲吞)

(中国語)

中華料理の一つ。小麦粉の皮でひき肉や野菜などを包んだもの。ゆでてから、スープに入れたものが多い。「ワンタン」という発音は、広東語の「雲吞 (ワンタン)」による。

標準的な中国語では「フントウン」と発音する。地方によっては「ウンドン」、「ホエトエ」とも発音され、「うどん」や「ほうとう」の元になった可能性がある。



ギョーザ

ギョーザ jiaozi 餃子 (山東語では giaozi)

(中国語)

餃子は中国の料理で、北京語の発音では「チャオズ」といい、山東語では「ギァオズ」と発音される。

小麦粉をこねて薄く延ばした皮に豚肉や野菜などを包んで三日月の形にし、蒸したり焼いたりして作る。

日本には江戸時代には入ってきたが、一般の家庭で食べられるようになったのは、戦後、満州から帰ってきた人が中国の餃子を再現して作ってからである。

日本では焼き餃子を思い浮かべることが多いだろうが、中国では水餃子が一般的である。



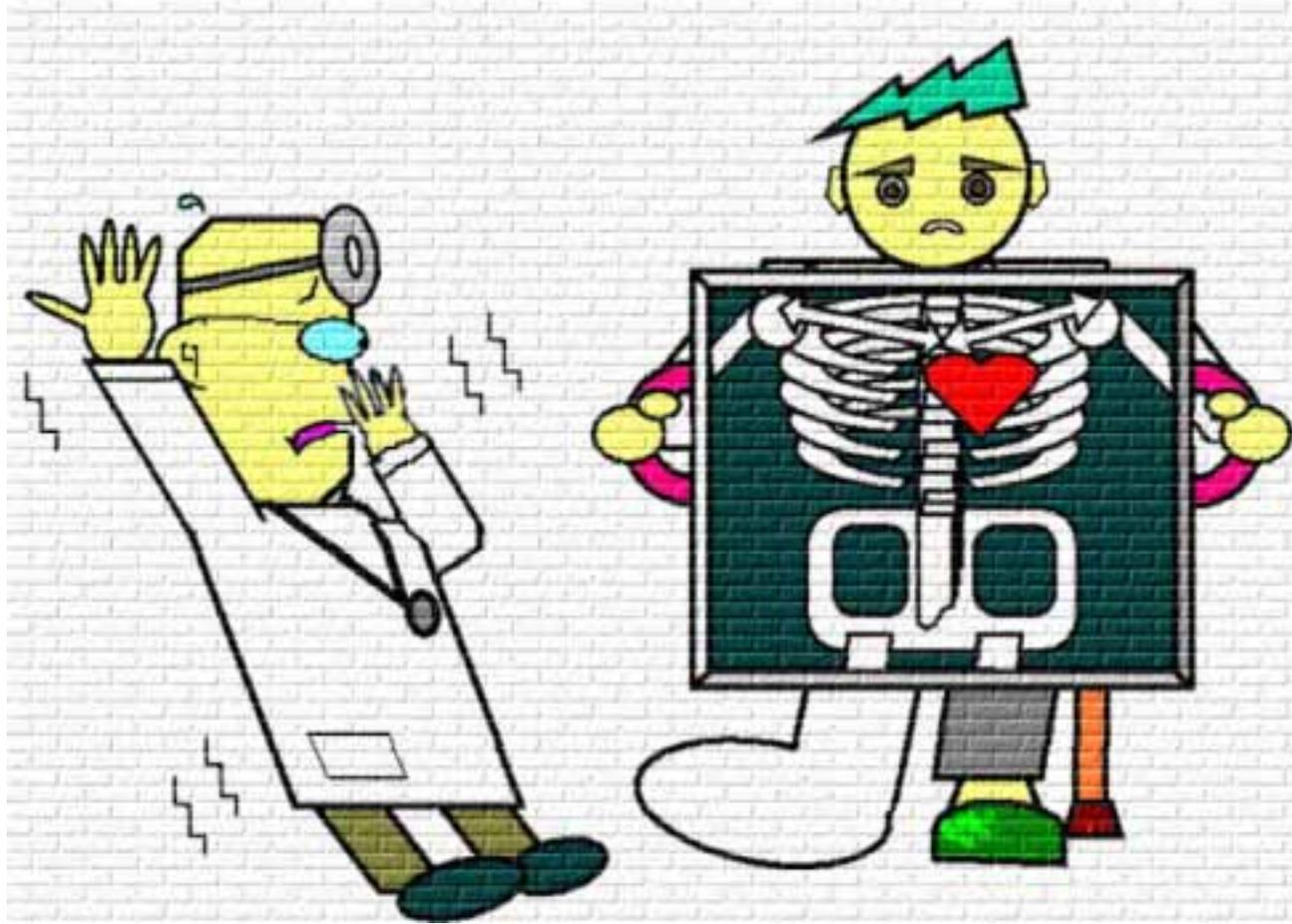
ギプス

ギプス Gips

(ドイツ語)

骨・関節の病気や骨折のとき、その部分を固定して保護するために使うもの。
包帯を石こうの粉でかためたもの。

「石こう」を意味するドイツ語の「Gips」に由来する言葉。



レントゲン

レントゲン Roentgen

(ドイツ語)

放射線の強さの単位。レントゲン写真の略。

ドイツの物理学者“レントゲン”と言う人がレントゲンを見つけたために、「レントゲン」と名付けられた。

1895年に見つけられた。

正式には、エックス線（X線）という。

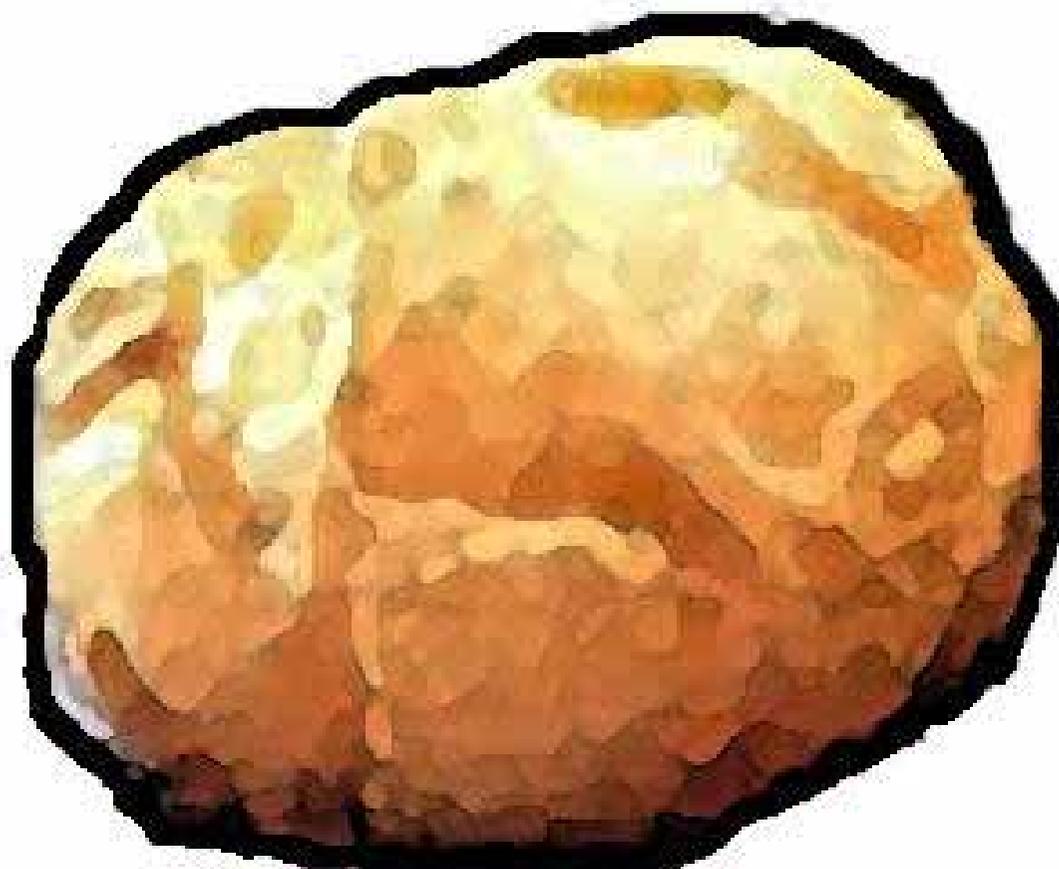


アレルギーー

アレルギー Allergie

(ドイツ語)

ドイツでは、「アレルギー、過敏症（かびんしょう）」の意味のみで用いる。
日本で使われる「ある物事や人に対する神経的な拒否反応」の意味はない。



シュークリーム

シュークリーム chou à la crème

(フランス語)

「シュー」とはフランス語で「キャベツ」という意味。

直訳すると「クリーム入りのキャベツ」シュー生地を焼成すると膨らみ、その形がキャベツに似ていることから命名された。

「シュー・ア・ラ・クレーム」の「ア・ラ」が省略されて、クレームが英語読みのクリームとなって「シュークリーム」となった。

外国で「シュークリーム」と言うと靴墨がでてくるかもしれないので要注意！？

日本への伝来

はっきりとした記録はないが、幕末に来日したサミュエル・ピエールというフランス人が横浜で西洋菓子店を営んでおり、この店で売られていたのではないかという説がある。

幕末には伝来していたと思われる。



アトリエ

アトリエ atelier

(フランス語)

アトリエとは、画家・美術家・工芸家・建築家などの芸術家が仕事を行うための専用の作業場のこと。

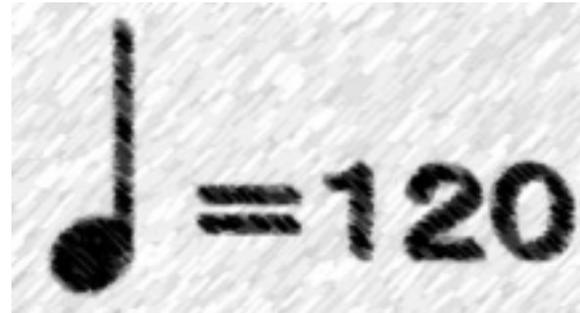
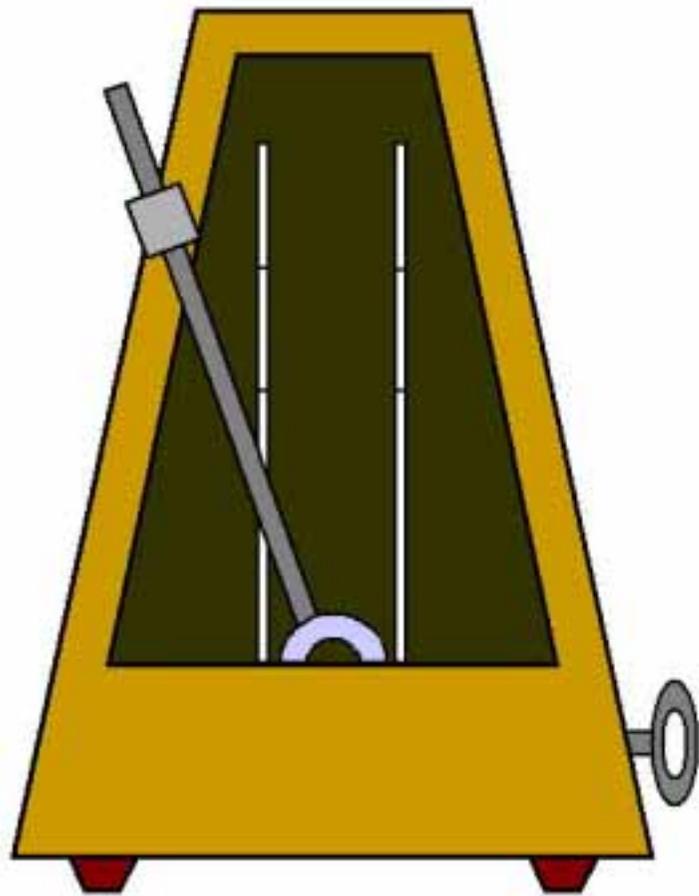


デッサン

デッサン Dessin

(フランス語)

デッサンとは、物や人・現象など、目に見えるものを鉛筆や木炭などを使って、紙などに描かれた素描のこと。



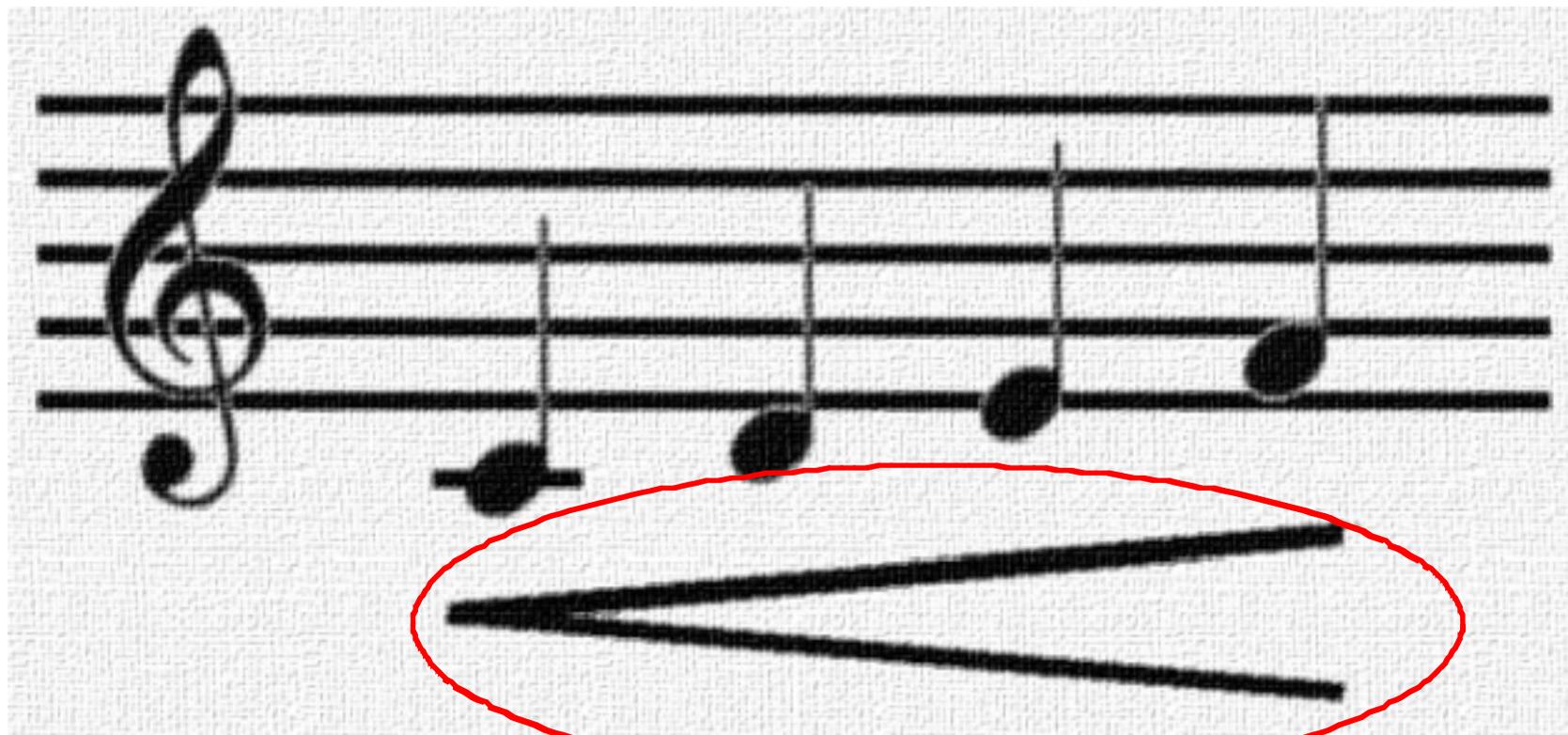
テンポ

テンポ tempo

(イタリア語)

音楽用語である。楽曲を演奏する時の速さをいう。

一般に速度記号で表され、速度を示す言葉（速度標語）またはメトロノーム記号で表される。



クレッシェンド

クレッシェンド *crescendo*

(イタリア語)

「だんだん強く」という意味を表す記号。

「成長する、伸びる、増大する、進歩する、上がる」という意味の「*crescere* (クレッシェレ)」に「～しながら」「次第に～する」の意味を付け足すと「*crescendo* (クレッシェンド)」という言葉になる。



オペラ

オペラ

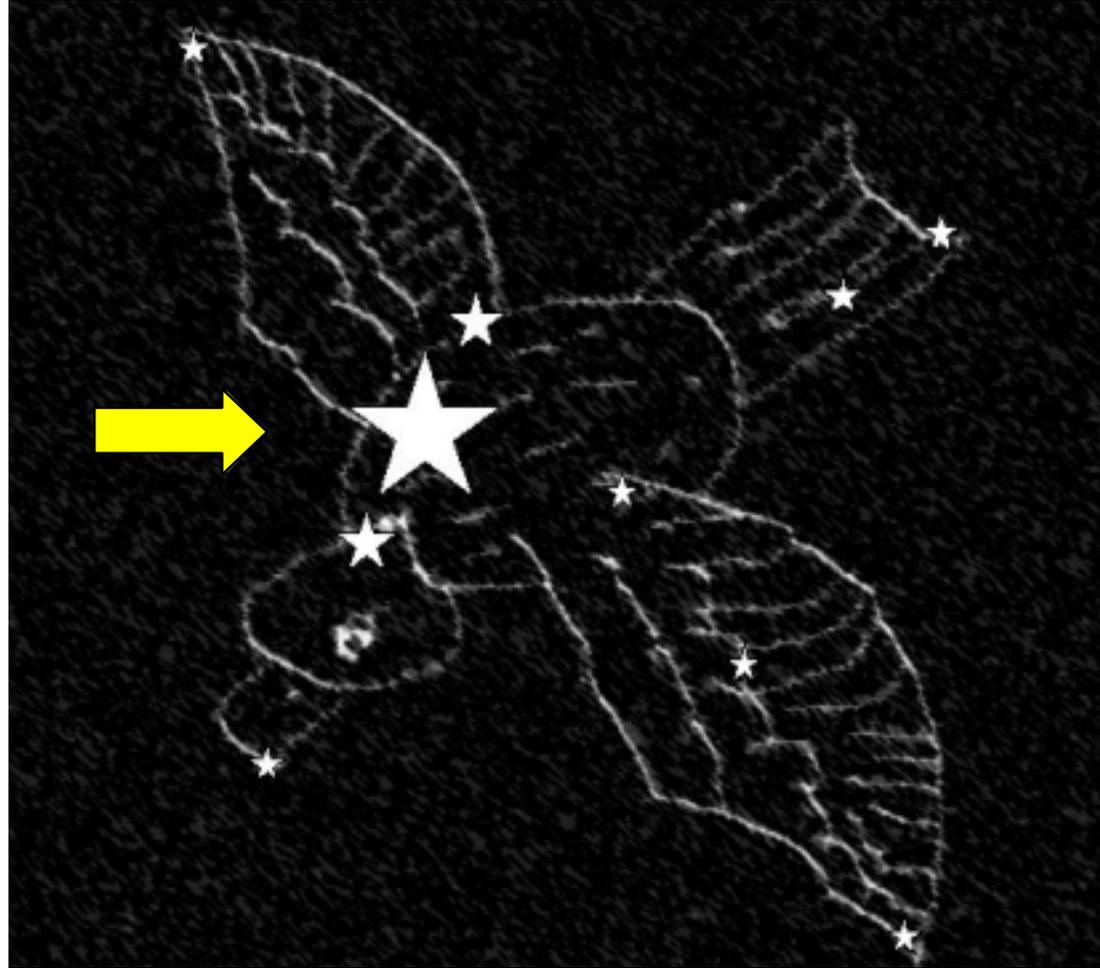
(イタリア語)

オーケストラをバックに歌手が歌う舞台劇を「オペラ」という。歌劇。

イタリアのフィレンツェが発祥の地で、一般市民に向けた芸術として生まれた。

オペラ・イン・ムジカ (opera in musica) 「音楽の作品」という熟語を省略した言葉で、語源はラテン語である。

イタリアでは、オペラという語は、「作品」という意味でも使われるため、「オペラ」を表すときには、「オペラ・リリカ」という使われ方が一般的のようである。



アルタイル

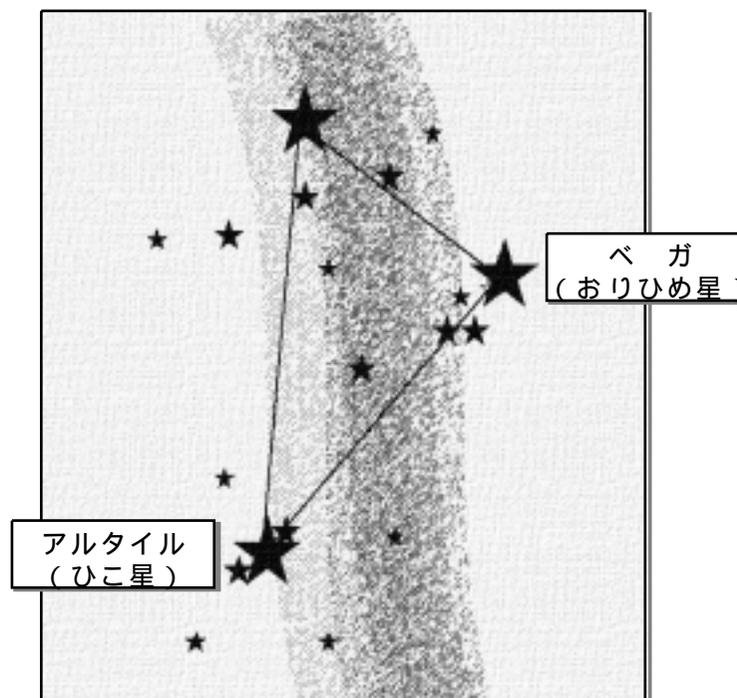
アルタイル Altair

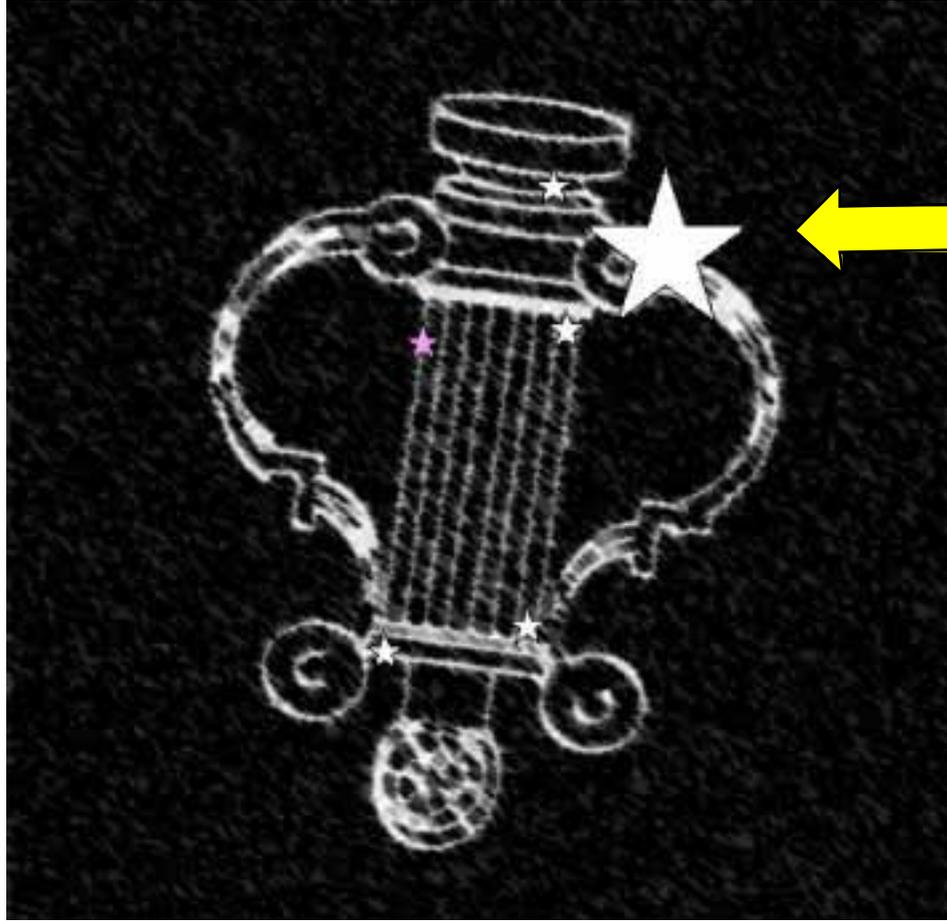
(アラビア語)

「飛ぶワシ」を意味する「アン・ナスル・アッ・ターイル」というアラビア語の後ろの部分だけをとったもの。

ベガと天の川をはさんで向かい合う「わし座」の一等星。

日本では古くから「彦星(ひこぼし)」「けんぎゅう星」として親しまれてきた。





ベ ガ

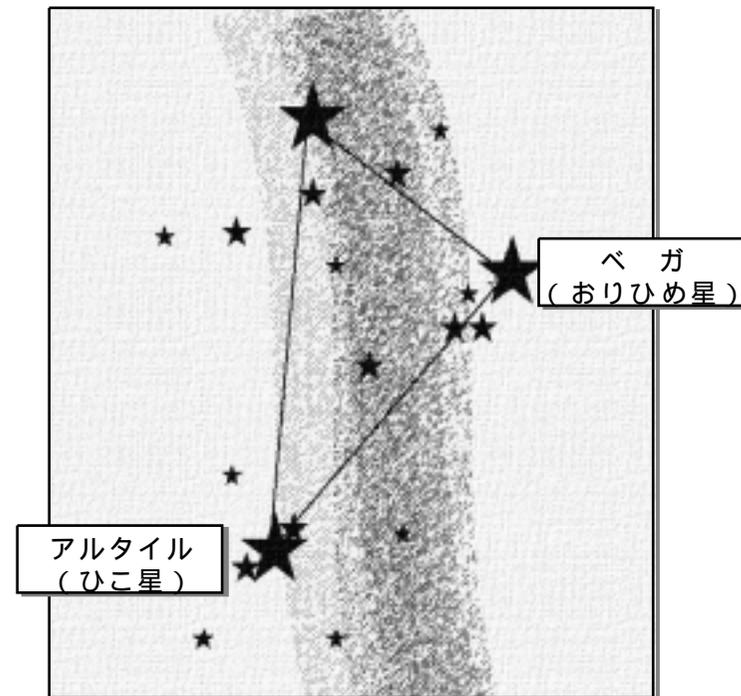
ベガ Vega

(アラビア語)

「落ちるワシ、降り立つワシ」を意味する「アン・ナスル・アル・ワーキウ」の「ワーキウ」が長い時間をかけて「ベガ」に変わった。

夏の夜空で最も明るく輝いている「こと座」の一等星。

日本では七夕の「織姫星（おりひめぼし）」、北欧では「夏の夜の女王」とも呼ばれている。





ベテルギウス

ベテルギウス Beteiguse

(アラビア語)

「巨人のわきの下」意味する「マンキブ・アル・ジャウザー」が長い時間をかけて「ベテルギウス」という発音になった。

冬を代表する星座である「オリオン座」の1等星。

表面温度は 3,000 度しかないので赤色に見える。

